

### Lantana torifolia L.

原産は西インド諸島，メキシコ，中央，南アメリカ。草丈は50～100cm。灌木状になり，新茎は短毛がある。葉は3枚が輪生し，長楕円形で両面に短毛があり，長さ約5cm，幅3cm。葉先と葉腋に頭状花序を着け，桃色の約5mmの花を無数に着ける。果実は直径約5mmの紫色の液果。

温室では次々と花を咲かせ，鉢植え，花壇植栽に向く。果実も観賞価値がある。



### Morinda citrifolia L.

原産は東南アジアからオーストラリア。沖縄にも自生があり，ヤエヤマアオキの和名がある。草丈は100～150cmの灌木。側枝が四方に広がり，新茎は4稜。葉は対生し，長楕円形で表面は光沢があり，長さ約30cm，幅約15cm。側枝の頂部葉腋に頭状花序をつけ，長さ約15mm，径約13mmの筒状の白色の花をつける。果実は球形多肉状の集合果で，黄緑色で後に紅色になる。

なお，1983年福山市の宗田利通氏より本種の園芸品種で白斑の品種の苗の寄贈を受け，1989年に大温室に地植えし，開花結実している。



## 園内の土壌分析結果について

吉岡敏彦

当植物公園は開園10数年を経て，植栽種も年々増加してきているが，近年生育がおもわしくない植物も増えてきた。現在の土壌の状態を把握し，植物栽培をスムーズに行う為，園内の土壌分析を行った。その結果を報告する。分析は広島市経済局園芸指導所に依頼した。

### 1. 調査概要

#### (1) 調査場所

- ① 系統進化園
- ② バラ園
- ③ ボタン園

#### ④ アジサイ園

#### ⑤ 大温室

#### ⑥ スイレン温室

#### ⑦ 苗ほ場

(2) 調査年月日 1991年1月17日

(3) 分析方法

pH及びEC……1:2.5

腐植……チューリン法

有効P……トルオーグモリブデンブルー法  
置換性塩基…1N・NH<sub>4</sub>OAc 原子吸光法

### 2. 調査結果及び考察

土壌分析結果は表に示す通りであった。

#### ① 系統進化園

全体的にpHが高く，EC（土中の肥料濃度），

表 土壌分析結果

場 所	栽培植物	pH(H <sub>2</sub> O)	pH(KCl)	EC	腐植	有効P	置換性 K	置換性 Ca	置換性 Mg	置換性 Mn
①系統進化園	キク科	7.24	6.52	0.101	3.23	102	32	260	20	0.04
	キキョウ科	6.58	5.50	0.071	1.67	8	20	119	9	0.10
	ユリ科	7.46	6.73	0.072	2.44	42	28	236	10	0.05
	ウリ科	7.08	6.64	0.176	2.56	201	48	232	34	0.08
②バラ園	バラ	6.88	6.50	0.486	0.96	65	58	144	15	0.10
③ボタン園	ボタン	7.20	6.53	0.161	2.15	95	20	211	19	0.07
④大温室	バナナ	5.24	5.24	1.024	5.99	393	37	400	20	0.21
	ピンポンノキ	6.46	5.66	0.145	1.87	35	24	166	11	0.07
	クワ科	6.63	5.93	0.237	3.21	18	18	160	15	0.41
⑤スイレン温室	オオオニバス	6.27	5.48	0.102	1.92	32	13	85	5	0.55
	熱帯スイレン	6.75	5.73	0.053	1.45	31	11	63	4	1.21
⑥アジサイ園	アジサイ (青系)	5.95	4.42	0.043	0.35	2	20	53	8	0.26
	アジサイ (赤系)	5.20	4.05	0.099	0.95	5	20	62	6	0.44
⑦苗ほ場	草花の育苗用土	6.71	6.33	0.504	6.62	41	58	298	51	0.36
	樹木の育苗用土	6.91	6.22	0.210	2.97	60	43	174	46	1.41
	キクの床上	6.42	5.83	0.152	5.24	280	20	279	27	0.02
	サクラソウ	6.94	6.37	0.204	4.99	266	23	255	24	2.36
標準適正範囲 (園芸指導所基準)	露地栽培	6.0~7.2	5.8~7.0	0.4~0.9	3.0以上	20~50	20~40	150~350	20~50	0.5~1.5
	被覆下栽培	6.5~7.5	6.0~7.0	0.6~1.0	4.0以上	30~50	20~40	200~350	30~50	0.5~1.5

腐植が低い。ECを高めることによりpHは下がるので、肥料分と共に堆肥などの有機物を十分与えることによって地力をつけ、早めに追肥で補っていくことが必要であることが分かった。

#### ② バラ園

腐植が低いので、有機物を供給する必要がある。有機物は土壌の化学性（水や肥料成分の保持能力等）、物理性（通気性等）、生物性（土壌微生物の活性等）を高める。

#### ③ ボタン園

pHが高い。酸性肥料を用いるなどの対策が必要であろう。

#### ④ アジサイ園

肥料分が少ない。肥培管理が必要と思われる。赤系はpHをあげないと発色がよくないのではないだろうか。

#### ⑤ 大温室

バナナが植栽してある土壌に関しては、pH(H<sub>2</sub>O)とpH(KCl)の差が0.3以下、ECが1.0以上と、濃度障害が出やすい状態にある。ただし、大温室はかん水量が多く、土中の塩類は流亡しやすいと思われる。その他については、

EC、腐植が低い。地温が高いので分解が早いなどの原因もあると思うが、随時追肥で補うことが必要である。

#### ⑥ スイレン温室

土は水中の為、肥料の流亡は激しいと思われるが、腐植質を多くし、保肥力を高めることも必要であろう。

#### ⑦ 苗ほ場

樹木の育苗用土は、弱酸性の方が望ましい。キク、サクラソウに関しては、リン酸が過剰である。この場合、拮抗作用で鉄、亜鉛、銅などの欠乏症状が出る可能性がある。

今回の土壌分析結果をもとに、土壌養分含量を適正に改良していく必要がある。今後は、定期的に土壌の追跡調査を行い、改良効果を植物生育の良否とあわせて報告していきたい。